

第6回 高原地区街づくり協議会 議事録（要旨）	
開催日時	平成27年10月16日（金）18：30～20：20
開催場所	天理市立福住公民館 大会議室
出席委員	12名
欠席委員	辻沢委員、木村(洋)委員、池田委員、菅野委員、山中委員
事務局	吉川市長公室次長、石原総合政策課長補佐、色雲主査、島田主事
決定事項	(1) 基本構想につき、本日いただいたご意見を踏まえた見直しを図る。 (2) 事業の方向性を具体化したものを次回会議に提示する。
議事内容	
<p>1. 開 会 -18：30-</p> <p>2. 市長挨拶</p> <p>地方創生の戦略策定にあたり、各地区がどのようにして持続可能な街としていくかを議論している。本協議会においても、様々な計画を立てているところ、新たな拠点となる福住幼稚園の利活用につき、ぽかぽか工房様に決定された。地域の皆様との利用を調和させていくかについては今後協議していきたい。</p> <p>3. 議事録の承認</p> <p>第5回協議会の議事録につき、異議なく承認された。</p> <p>4. 議 事</p> <p>(1) 具体事業の進捗状況等について</p> <p>会 長</p> <p>資料2頁に事業一覧を提示している。まず、はじめに、旧福住幼稚園の利活用事業について、7～8月にわたり公募型プロポーザルによる選定を行い、最優秀提案者に特定非営利活動法人・誠優会様に決定した。本日も越しいただいており、ご説明願いたい。</p> <p>誠優会・堀内理事長（挨拶省略、発言要旨）</p> <p>市より応募の機会を得たことを感謝している。かつて幼稚園愛護会長に就任しているときに、本幼稚園の周年行事に参加した。私は市内で最多の園児がいる前栽幼稚園の会長であったが、最少であった福住幼稚園との対比は新鮮であったと記憶している。特に、地域一丸となつて取り組まれている印象を強く受けた。園児ひとりひとりをみて、どちらのご家庭の子であるかをみなさんが認識しているようにも見えた。</p> <p>そのような素敵な幼稚園をもう一度みなさんが集う場所としていきたいと思い、公募に参加</p>	

した。そのときのプレゼン内容を説明する。

私たちは、障がい者福祉に携わっているが、障がい者・子どもたち・高齢者というように区切るのではなく思いやりの心でみんなが笑顔になるようにしていきたい。

プロジェクトのテーマは、「誰もが助け合える、共助作用が自然と生まれる地域づくり」としてそれぞれが抱える問題を繋ぐことにより解決するよう目指したい。子どもはもちろん、高齢者の方々も子どもらと触れ合うことで生き生きと過ごせるようになるのではないかと考えている。それは、ありそうでなかった総合型福祉として、理想的な共助の輪、福祉の輪となるよう本幼稚園を実践的に利用したい。資料に提示したような効果が望まれる。

私たちの障がい福祉事業は、ものづくりであったり、音楽であったりと表現する福祉に取り組んでいる。例えば、ものづくりであっても障がい者だから・福祉だから・という枠で捉われずに形成づけていきたい。

「地域福祉」の観点では、過疎化・高齢化が進む福住において、田畑を活用していきたいと考える。

「ぼかぼかサロン」は、最も行いたい事業であり、場所や時間にとらわれずに誰もが自由に交流できる場所としていきたい。

「テレワークセンター」は、市の興味深い事業に賛同している。翻訳・デザインといった仕事であれば、自宅とは異なる一定スペースを設けることで家事とは切り分けて仕事に専念できる。また、福祉のプロとして、引きこもりの方等を就労支援につなげるような取り組みを図りたい。

「子育てひろば」は、退職された先生方の御協力により、寺子屋的な取り組みから始められたらいいと考えている。イタリアにあるレッジョ・エミリアで取り組まれているような芸術・感性を育む場となるように取り組みたい。

「ぼかぼか農園」は、耕作放棄地を活用して取り組む。前嶋さんのコーディネートのもと、今年は、滝本町でわさび栽培、二階堂で大麦栽培・麦茶づくりを行った。福住地域においても、同様に取り組んでいきたい。

「豊かな心を育む芸術」は、私をはじめ、スタッフの中には芸術大学出身者もおおり、芸術分野に長けた人材がいるため、提供していきたい。

「全国の仲間とつながる」は、活動を通じて交流のある方々と共に地域福祉を支えていきたい。例えば、NPO法人・地球元気村と連携する。当団体は、オートバイラリーのパイオニアであり、冒険家の風間深志さんが代表を務めており、ひとり親家庭の自然体験教室などに取り組まれている。お手元に11月7日に開催する「第1回地域交流会 ぼかぼか地球元気村」を配布している。福住の方は無料でお昼ごはんを提供させていただくので、ぜひ、参加していただきたい。

これらを1週間ごとのタイムスケジュール案として、提示した。生活介護に利用した後は、子育てひろばに利用する、旧リズム室ではぼかぼかサロンを展開する。また、週に2回程度ア

ートスクールを開催することを考えている。地域のみなさまと相談して決めていきたい。

そして、これまでの施設内装はできるだけ維持したまま、市によりトイレ改修などを行っていただくことになる。今後の事業開始までのスケジュールは資料に提示しているが、若干修正はあるものの、28年度を目指して進めていきたい。

会 長

ありがとうございました。みなさまからわかりにくかったことなどご質問ください。

委 員

11月イベント「ぽかぽか地球元気村」では、福住校区在住の方はイベント参加費無料ということですね。

誠優会・堀内理事長

はい、そのとおりです、申込みがまだの方は会議後にでも提出してください。

会 長

ほかに質問はないようですね。

さて、公共施設をいかに活用するかは市の課題である。(9月議会で廃止条例を上程された)福祉センターは苦渋の決断であった。しかし、校区の皆さんに引き継がれたために可決されたと思慮する。閉園後、単発的にイベント利用されていた福住幼稚園においても、地域に根差した拠点になるかは今後の運営次第であると考え。よそ者が来たと捉えるのではなく、一緒につくりあげる者が来たとの流れになるようにしていただきたい。子育てや結婚の機会に福住から市内外に流出する方がいることは事実であるが、小・中学校維持に向けての子育てひろばの機能や、雇用の確保に資するテレワークセンターの創出などにより抑制していただきたい。

11月のイベントは、最初の取り組み、試金石となりうるが、区長様の見立てはいかがか。

委 員

堀内さんには、今月当初に開催した校区区長会に出席、ご説明いただいた。まさに11月イベントで地域住民は(ぽかぽか工房の)活動を見ることになるでしょう。

誠優会・堀内理事長

区長会のみなさんは、普段から役回りでボランティア活動などに従事されており疲れておられると思う。今回は参加していただくことで、私たちを知っていただく機会となる。別の機会に御協力いただければ幸いである。

今回のお食事には、鶏肉の炭火焼やナポリピザ、ティラミスなど提供するので楽しみにして

いただきたい。

事務局

それでは、今後の幼稚園利活用スケジュールを説明する。

トイレ等の基礎的改修工事に係る設計業務が11月中旬に完了後、工事は年明け開始、3月末までに完了する。協議会は、各業務完了を目途として、12～1月の開催、3～4月の開催を予定している。テレワークも1～2月に設置準備を予定している。

委員

トイレはすべて大人用に改修するのか。イベント利用時を考えると子ども用もあった方がよいかと思う。

事務局

主たる用途は、誠優会の障がい者福祉となるために大人用へ改修するが、子どもの利用にあたっては支障がないように配慮したい。

それでは、次の議題である「酒米作づけ推進事業」について進めたい。市本委員よりご説明いただきたい。

市本委員

稲穂も実ってきており、収穫も近々行える時期にきている。生産者と酒蔵で話を進めていただく予定となっている。耕作放棄地の活用も目指しながら、今後の展望として市内酒蔵さんで製造していただきたいという思いがある。

会長

酒米の栽培にあたり、完成すればどこの地域で栽培されている酒米なのかを消費者は興味を示す。そして、生産地を見学するという行為につながるだろう。

委員

専門家によれば標高300m以上での栽培は困難との見解もあるなか、趣旨に賛同し、生産に協力された2名がいる。酒米として利用できるかは、米の中心部である心白の割合によると聞いており、収穫が終わってから判明する。

会長

次回協議会で等級などを含めた収穫時の話をお聞かせ願いたい。

では、次の議題である空き家利活用推進事業につき、岡田委員と事務局からご説明願いたい。

岡田委員

お手元に、大学広報誌「はばたき」秋号に掲載予定の記事がある。もよの家に7月8日・9日に通学合宿として行った。本学生が福住から大学へ通学できるかの可能性を探る目的もある。人間学部1年生5名と体育学部3年生6名（教員3名同行）が参加した。

真っ暗で静かな環境のなか、時期的にホタルも散見できた。畑できゅうり収穫・そのまま丸かじりで食することも体験できた。秋にも実施しようかと予定している。本日は、参加した学生を連れてきた。

学 生

同じ市内でも環境が全く異なる地域と感じた。先生も話されたようにホタルも見ることができた。

事務局

7月25日～26日の両日にかけて若手職員による地域体験を行った。参加者3名と顔出し者4名であった。

まず、30代前半・男性職員（朝和小学校区出身・市内在住）からは、何よりも涼しさに驚いた、福住へ訪れることは初めてであったが、実際に来訪し、体験することで地域の良さに気付いた、早朝は、小鳥のさえずりが目覚まし時計の代わりとなった、空気が澄んでいるため、夜空の星がはっきりと見えるうえに天空との距離が間近に感じると述べた。

そして、20代後半・男性職員（大阪出身・大和高田市在住）からは、本当の田舎を知らないで育った、これまでマンション住まいしか経験がなく、「縁側に座る」という行為自体あまり経験はなかった、縁側に座り、じっくりと緑色に染まる景色を楽しめた、まるで、旅行に来たような感覚に至った、などの感想を得た。

会 長

素晴らしい感想を述べられた。しかし、福住の良さからすれば当然導き出せる感想だろう。ただ、思い出づくりになってしまうだけではいけない。今後、活性化としてどのようにつなげていくかを議論しないといけない。方向性として合宿として、または定住することを目指すのかで切り口が異なる。学生は同宅までどのように行き来されたのか。

岡田委員

教員の自家用車に同乗させた。単車もあるが、やや困難だと感じる。

会 長

やはり、交通手段が肝になりますね。

岡田委員

男女混同となった今回の合宿で気づいたことは、男女を仕切るカーテンなどが必要となる。それがあればシェアハウスとしても利用できる。

会 長

下宿という可能性はどうか。高齢者ご夫婦世帯の家庭から通学する形はどうかと考える。もちろん、承諾していただく方は必要なのだが。

ところで、天理大学生はおよそ3,000人在籍されているなか、100人に1人の割合（＝30人程度）が高原地区に居住されれば、コミュニティの維持だけでなく劇的な変化となる。もちろん、一足飛びにいけないことは理解しているのだが、いかがだろうか。

委 員

交通アクセス問題に言及するが、スクールバス等の支援があれば広がると思う。

会 長

現在、市より補助金を捻出することで民間によるバス運営を維持している状態である。交通問題はすぐに解決できないと感じている。

委 員

空き家の話になるが、不在年数が経るほど傷みが増してくる。水洗トイレへの切り替え改修など必要な支援を考えていくようにされたい。

事務局

空き家の活用につき、ご自宅の活用を示唆されている物件は数軒ある。売却を望まれる場合、賃貸を望まれる場合、一定期間の賃貸ならば可能と条件を設定される場合などがある。整理のうえで、可能な範囲での支援を検討したい。

会 長

一軒ごとに多大な費用をかけることは迅速性を失うことになる。次回には課題と方向性を提示されたい。

続いて、前回も少し検討しているとお伝えした校区外から福住小・中学校へ通学する方法について、まだまだ構想段階であり途中経過ではあるが触れておきたい。

検討内容は、教育特区認定学校として特色ある科目カリキュラム（英語など）を作成するものであり、28・29年度に計画、30年度には実施するという構想である。ここでも交通手段の確保が肝要となるなか、コミュニティバスの拡充などで対応したいと考えている。

委員

たしかに福住小・中学校の運営をどのように進めていくかを検討する時期に来ている。

会長

少人数による教育効果は理解しており、（維持するために）どのように道筋を立てていくかですね。交通手段の話として、ぽかぽか工房に通所される利用者さんはどのように来られるのか。

誠優会・堀内理事長

利用者は当市、奈良市、大和郡山市などに居住されているが、自宅まで車両を走らせている。

会長

なるほど。やはり、輸送するという単一目的だけで平野部から福住へ輸送することは困難であるなか、他の目的・用途と掛け合わせるができないかと考えている。

委員

現時点で山田こども園19名、小学校42名、中学校23名という減少傾向にあるなかで、一度減少が始まると10年・20年の期間が必要になると理解している。それまで、維持できるかどうかは不安である。

会長

先ほど示唆した構想は、現在の福住の方々で維持するという枠組みに捉われずに、校区外の児童・生徒も含めて対応していくという形である。もちろん、希望者がいるか受け入れ先の負担はどうかなどの課題点もある。

本議題につき質問がなければ、次の議題である高原地区街づくり基本構想素案について事務局よりご説明願いたい。

事務局

昨年10月に奈良県とまちづくりに関する包括協定締結に伴い、財政支援も得ることになる。要件として基本構想の策定が義務付けられており、来年3月末までに完成させることとなる。

今回は素案として提示した。

1～5頁は地域特性（立地・人口、児童数、商業、交通・公共公益施設、自然環境・歴史・

文化)を整理している。

7頁は、第1回協議会より提示したコンセプト『「住んでよし!訪れてよし!」を体現する高原のさと』としつつ、ビジョンを視覚化している。小さな拠点を形成づけるような旧幼稚園、小学校、JA、郵便局の存在を示し、山田町、長滝町へつながるイメージを表した。

8頁は、7頁で視覚化されたものの具体性を持たし、強みを活かした3つの枠組み「豊かな自然環境を活かす」「伝統の歴史・文化資産の魅力創出」「互助と互恵が息づくまちづくり」を基本に、それぞれ「里山交流・教育体験、遊休農地を活かした農業体験、特産品の開発・促進支援/販売支援」、「伝統文化の授業と体験、サイクリング(ならクルルート)・ウォーキングコース(道安の郷いっしょ)」の整備、地域固有の祭り・行事の継承と拡大、「多世代交流拠点・雇用創出の場づくり、隣接する大和高原地域との連携、暮らし続けられるための定住人口維持・増加を目指す移住促進支援」などを展開することを目指したい。なお、地図上には展開したい取り組み場所を記載しているものの、確立された場所ではないことを付言しておく。

9頁は、3つの強みに応じた各方針を挙げ、10頁~最終頁は具体の事業を提示している。今後、委員のみなさまからの意見を取り入れながら適宜加筆していきたい。

会 長

ありがとうございます。特に、まちの将来像以下について、これまでの議論された内容が抜けていないか等につき、ご意見いただきたいと思う。(地図上では)長滝町は、空き家を活用すると記載しており、これまでも情報をお寄せいただいている。

委 員

やはり、空き家対策は喫緊の対策が必要だと感じている。木の根が畳を突き破った状態の家がある。一方、住める状態のご自宅はあるものの、将来は戻って住みたいという考えをお持ちの方もいる。それぞれのご家庭の事情があると認識している。

会 長

たしかに各事情はありますね。30年間の賃貸などではなく、学生による(下宿形態などの)賃貸なら貸していただける余地があるのではないかとも思う。特殊な例かもしれないが、とある地方では、親戚が集うお盆の時期だけは使用しないという約束をし、同時期以外は相場より廉価で貸す方法もあると聞いている。近年は踏み込んでいる事例も見受けられ、方法論につき柔軟な相談をしていければよい。

ところで、前回協議会では農産物を販売することをご提案いただいたと思うが、本構想には記載していないのではないか。また、福住未来クラブ様の活動で盛り込むべき点はおありか。

事務局

直売の件につき、現段階では記載していないため、(代替事業も含めて)提案委員と相談していきたい。

委員

現在の氷まつりの活動を着実に取り組むことで精一杯であり、前進的な取り組みを考えるまでには至っていない。これまでアピールは苦手であったが、今年は、産業振興課によるイベントと連携していただき嬉しかった。これからも発信していただきたい。

会長

今後も効果を促進することで御協力していきたい。

では、その他の議題に移り、やまと様の活動報告をいただきたい。

やまと・前嶋代表 (発言要旨)

幼稚園カフェの開催結果を御報告する。

参加者 160 名、学生ボランティア 16 名、スタッフ 35 名の合計 211 名となった。校区外からも 108 名の参加となった。参加者の意見につき、アンケート結果もご覧いただきたい。また、反省会も行ったところ、スタッフへの案内時期、2 日間開催の要否などにつき改善点が挙げられた。来年度の開催につき、1 月から始動することを考えている。

また、10 月末に福祉センターにて「薪の駅」イベントを開催するので別添案内チラシにて紹介する。

会長

幼稚園・福祉センターを拠点に福住から展開する事業・イベントが多いと感じるなか、山田公民館などから展開することはないか。

委員

数日前に話があったが、山田公民館の北側に 30 数年間放置された荒れた土地がある。木の伐採などを要望していたが、貸してくれるとの意向があった。活性化という形で営農組合が取り組もうとしている。ひとつの土地整備が隣接する土地の整備につながるなど良い波及効果が生まれるかもしれない。

会長

ありがとうございます。事務局からもフォローアップされたい。最後に意見などないか。

委 員

学校教育の話になるが、ゴルフ場を活かした特色ある教育もあるのではないか。福住にはプロ選手が所属している企業もある。

委 員

人間学部自主サークル Ir-net (アイールネット) が、11月14日「丸太 de 木工工作」を開催する。川上村の木材を利用するが福住産で利用できる木材があればご提供願いたい。

事務局

最後に、行政施策評価制度の授与式についてご報告する。去る7月下旬に授与式を行い、本協議会委員である池田委員、菅野委員が第1号として認定された。新聞各紙にも掲載されたのでご紹介する。

会 長

貴重な情報等ありがとうございます。また、天理大学様とは継続して学生を評価することとしたい。

それでは、すべての議事を協議し・報告事項も終了した。次回会議には、基本構想につき、本日いただいたご意見を踏まえた見直しを図り、報告された事業の方向性を具体化したものを提示されたい。

5. 次回の日程と主な協議内容

次回・第7回会議は、1月上旬・中旬を目途として開催することを伝えた。

6. 閉 会 -20:20-

以 上